

平成27年度 「秋田市6次産業化に関する意向調査」 報告書

第1章 秋田市6次産業化に関する意向調査の概要・・・P1

第2章 調査結果の概要

1 農業者・・・P3～23

2 商工業者（食品製造業者等）・・・P24～34

参考資料 農業者用調査票

商工業者（食品製造業者等）用調査票

平成27年12月
秋田市農林部農林総務課

第1章 秋田市6次産業化に関する意向調査の概要

1 目的

農業者および商工業者（食品製造業者等）のニーズや意識を把握し、本市6次産業化施策の推進に向けた参考資料とすることを目的とする。また、このアンケート調査は平成24年度にも行っており、当時と比べどの程度、6次産業化について浸透しているかを把握する。

2 調査概要

- (1) 調査期間 平成27年7月17日（金）～平成27年8月10日（月）到着分
- (2) 実施方法 郵送によるアンケート方式
- (3) 対象件数 658件(前回549)
- | | |
|--------------------|--------------|
| （内訳）①認定農業者および若手農業者 | 563件(前回430件) |
| ②商工業者（市内食品製造業者等） | 95件(前回119件) |
- (4) 回答件数 351件(前回242件)
- 回答率 53.3%(前回44.1%)
- | | | |
|--------------------|--------------|----------------|
| （内訳）①認定農業者および若手農業者 | 317件(前回194件) | 56.3%(前回45.1%) |
| ②商工業者（食品製造業者等） | 34件(前回48件) | 35.8%(前回40.3%) |
- (5) 有効回答者の基本属性
- ①認定農業者および若手農業者
- ア 性別
男性90.5%、女性6.6%、無回答2.8%となっている。
- イ 年代
60～69歳が47.6%と最も多い。50歳以上は全体の87.1%を占めている。
- ウ 居住地域
雄和地域が24.0%と最も多いほか、河辺、金足、太平などとなっている。

エ 農業の形態

専業農家が43.2%と最も多い。

オ 同居家族

親子2世代が38.8%と最も多いほか、親子・孫3世代も27.8%と比較的多い。

②商工業者（市内食品製造業者等）

ア 主な事業

食料品製造業が47.1%、食料品卸売業が29.4%、食料品製造小売業が20.6%、食料品小売業2.9%となっている。

イ 主な製造・販売製品

畜産食料品が14.7%、次いで精穀・製粉、パン・菓子、酒類となっている。

ウ 主な出荷先

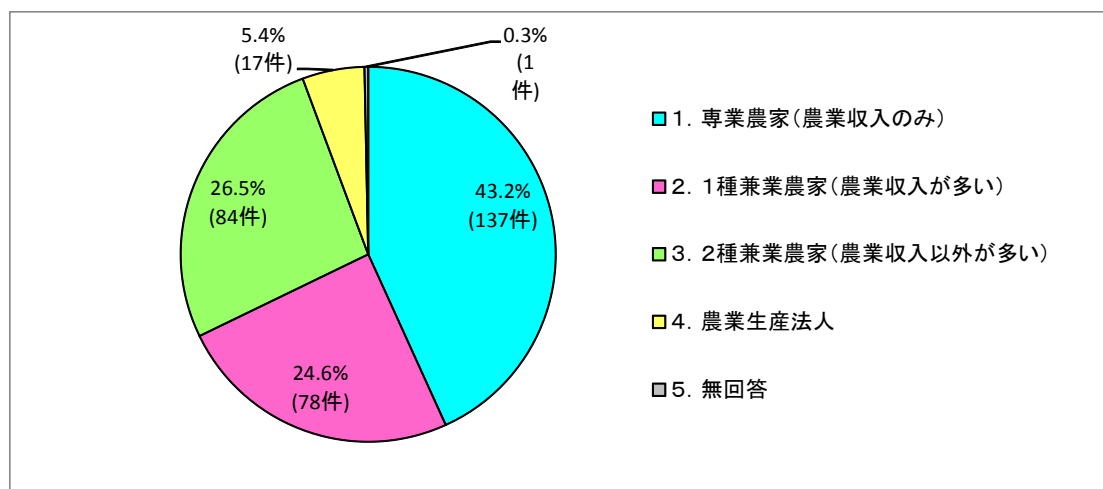
秋田市内在が61.8%を占める。次いで東北・関東地方と続く。

第2章 調査結果の概要

1 農業者

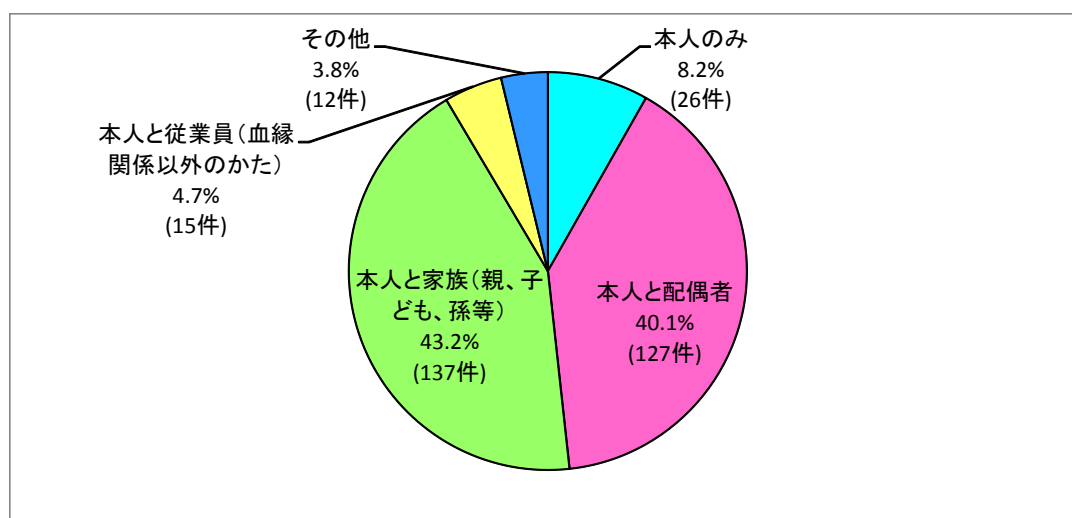
農業生産について

問1. あなたの世帯の農業形態を次の中から1つ選んで番号を記入してください。なお、1～3のいずれかに該当する方で、かつ農業生産法人の経営者である場合は、4を選択してください。



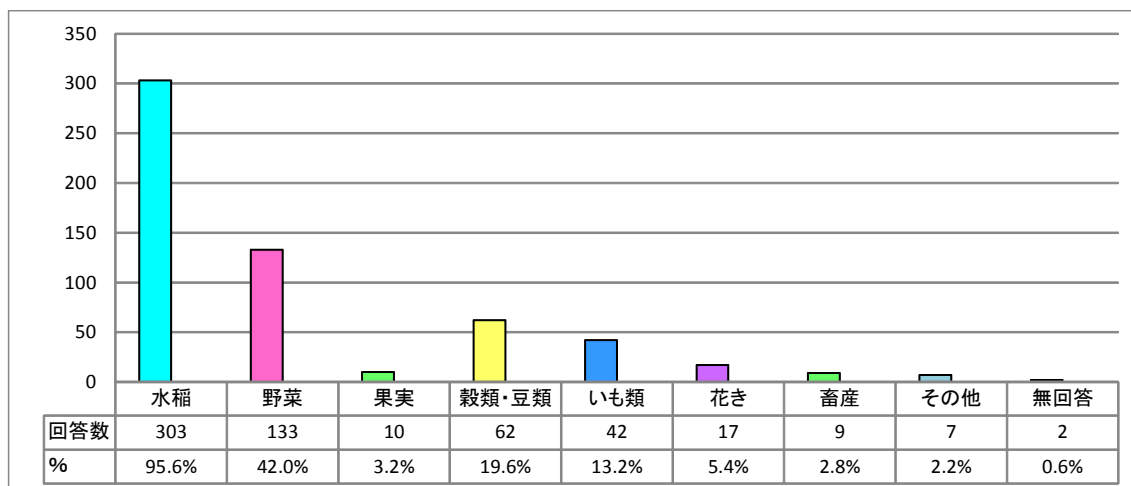
問2. あなたの世帯の農業従事者はどうなっていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「本人と配偶者」および「本人と家族(親、子ども、孫等)」が合わせて83.3%と、ほとんどの世帯が家族経営をしている。

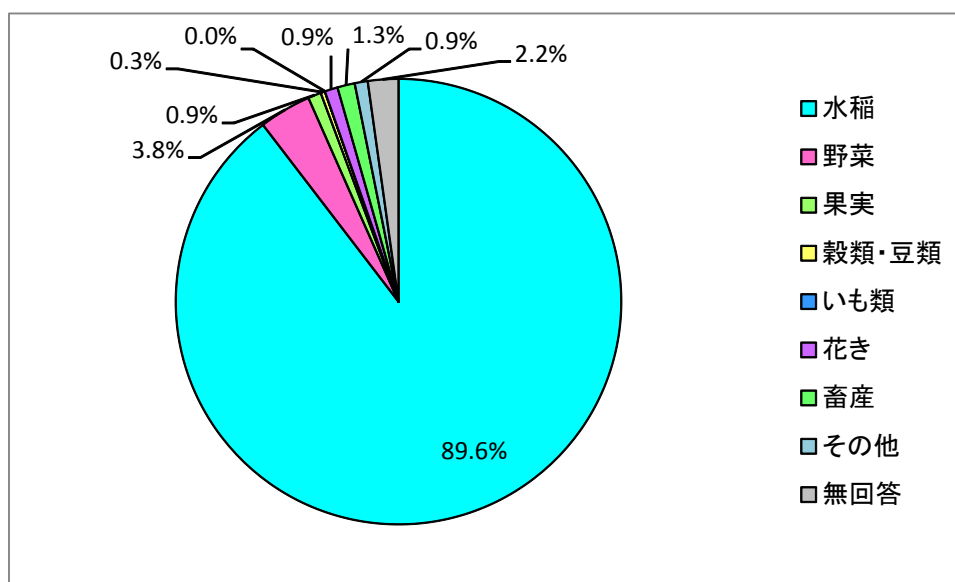


問3. あなたの世帯が生産している作物はどれですか。次の中からあてはまるもの全ての番号に○をして、最も販売額が多い作物の番号を記入してください。

農地のほとんどが水田である本市の現状を反映し、「水稻」が95.6%（317件中303件）とほとんどの世帯が稲作に取り組んでいる。併せて「野菜」に取り組んでいる農家が約4割いる。また、最も販売額が多い作物では、「水稻」が約9割を占めている。



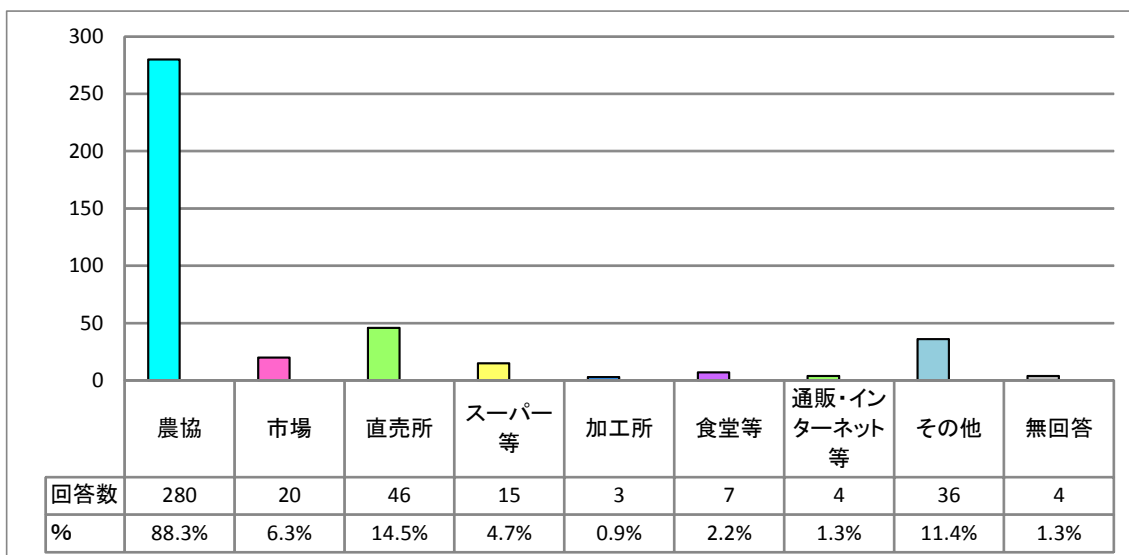
【最も販売額が多い作物】



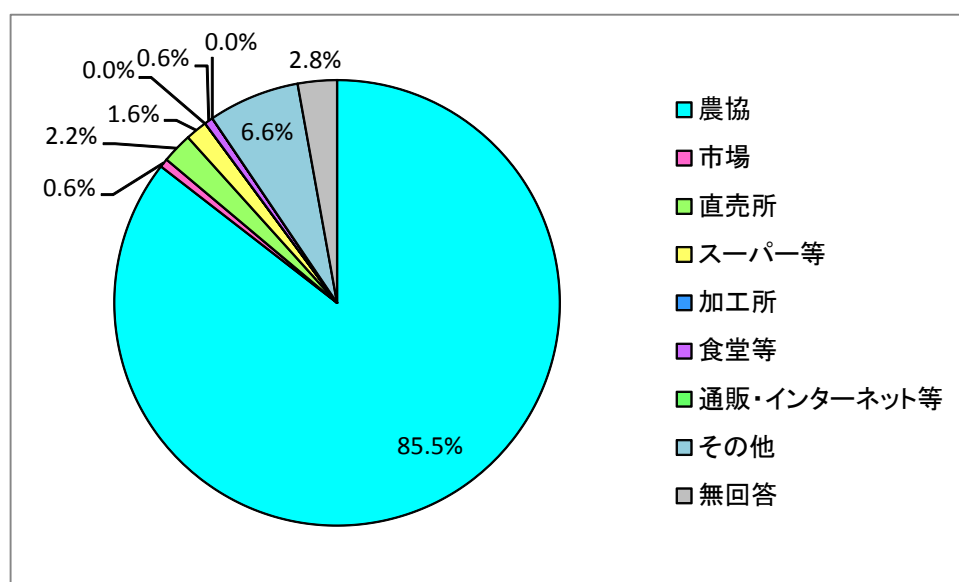
その他・・・山菜（たら、こごみ）、野菜苗、菌床しいたけ、葉たばこ

問4. 問3で選択した最も販売額の多い作物の主要出荷先はどこですか。次の中からあてはまるもの全ての番号に○をして、最も出荷額の大きい出荷先の番号を記入してください。

「農協」に出荷している農業者が最も多く、9割弱を占めている。次いで、「直売所」(14.5%)が続く。また、最も出荷額が大きい出荷先も、主要出荷先と同様に、上位から「農協」「直売所」となっている



【最も出荷額の大きい出荷先】

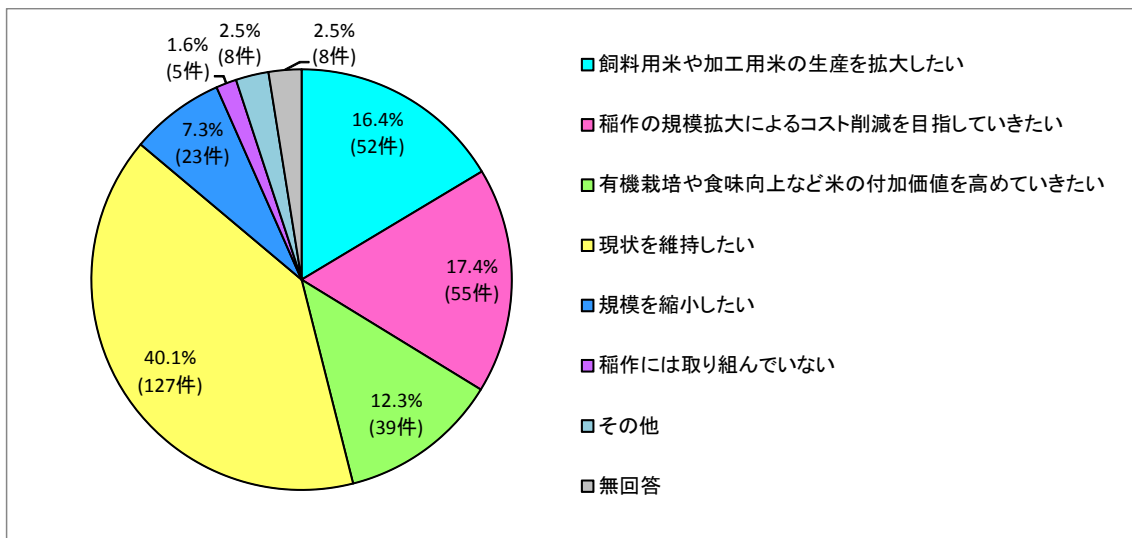


その他・・・個人販売、企業、集荷業者、親族、店頭販売 ほか

稲作・園芸農業について

問5. 稲作についてお聞きします。米政策の見直しなど、稲作を取り巻く環境が大きく変化していますが、あなたの世帯では、今後稲作についてどのように取り組みたいとお考えですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

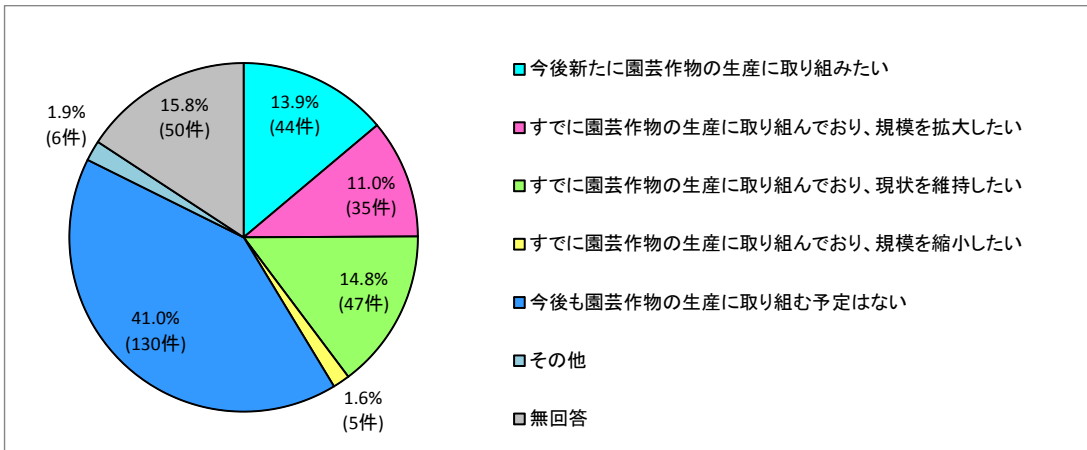
「現状を維持したい」と回答した農業者は40.1%であったが、「飼料用米や加工用米の生産を拡大したい」「稲作の規模拡大によるコスト削減を目指していきたい」「有機栽培や食味向上など米の付加価値を高めていきたい」という問題意識を持っている農業者が約半数（46.1%）に上った。



その他
直売の数量拡大を目指している。
酒米の生産に取り組みたい。
規模を縮小し、契約販売のみにしたい。
後継者がいないため、耕作を委託する。
農業法人に加入（個人の場合）
地域の有志で共同化した農業。
赤字経営となれば廃業も考える。

問6. 園芸作物の生産についてお聞きします。あなたの世帯では、今後園芸作物の生産についてどのように取り組みたいとお考えですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

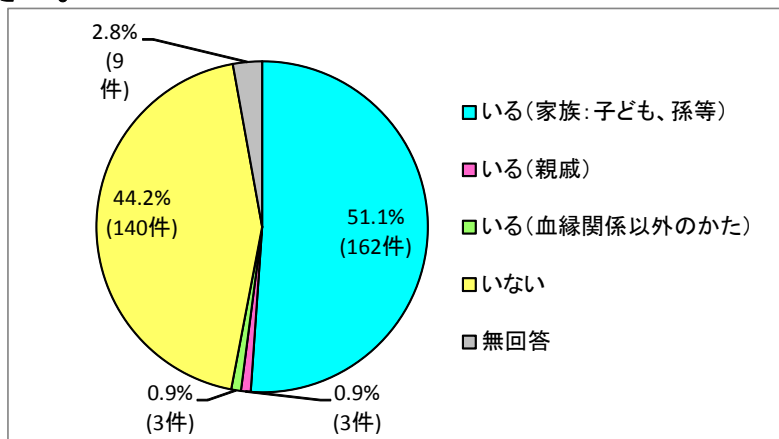
「今後新たに園芸作物の生産に取り組みたい」と意欲を見せている農業者は13.9%であった。また、27.4%の農業者が「すでに園芸作物に取り組んでいる」が、一方「今後も園芸作物の生産に取り組む予定はない」と回答した農業者は41.0%に上る。



その他
冬季のハウス生産を拡大したい。
キウイフルーツの植栽。
冬期の取り組みができれば生産したい。
自家用分だけで十分。
大仙市、能代市、北秋田市などのように、基本の方針と成功的事例を実際に実現できる信頼が必要。

問7. あなたの世帯の農業には、後継者がいますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

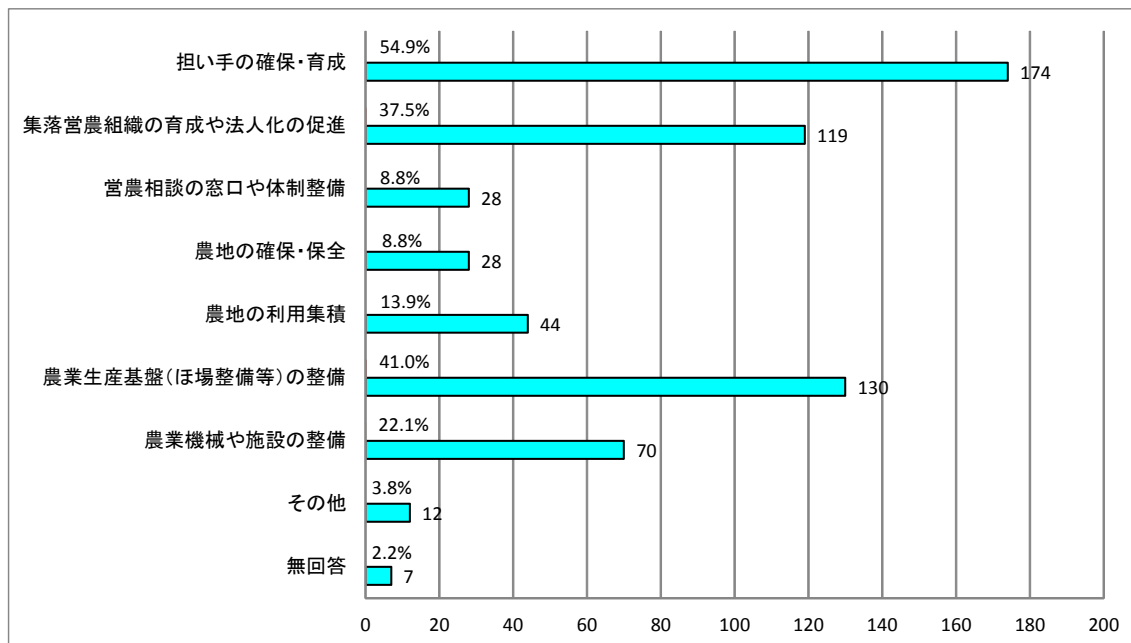
血縁関係にかかわらず後継者が「いる」とした農業者は過半数を超えるが、一方で44.2%は後継者が「いない」とした。



問8. 地域の農業が存続していくために、何が重要であるとお考えですか。次の中から2つ以内を選んで番号を記入してください。

最も多かったのは「担い手の確保・育成」であり、前問で後継者が「いない」とした農業者が44.2%いることから、この結果が伺える。

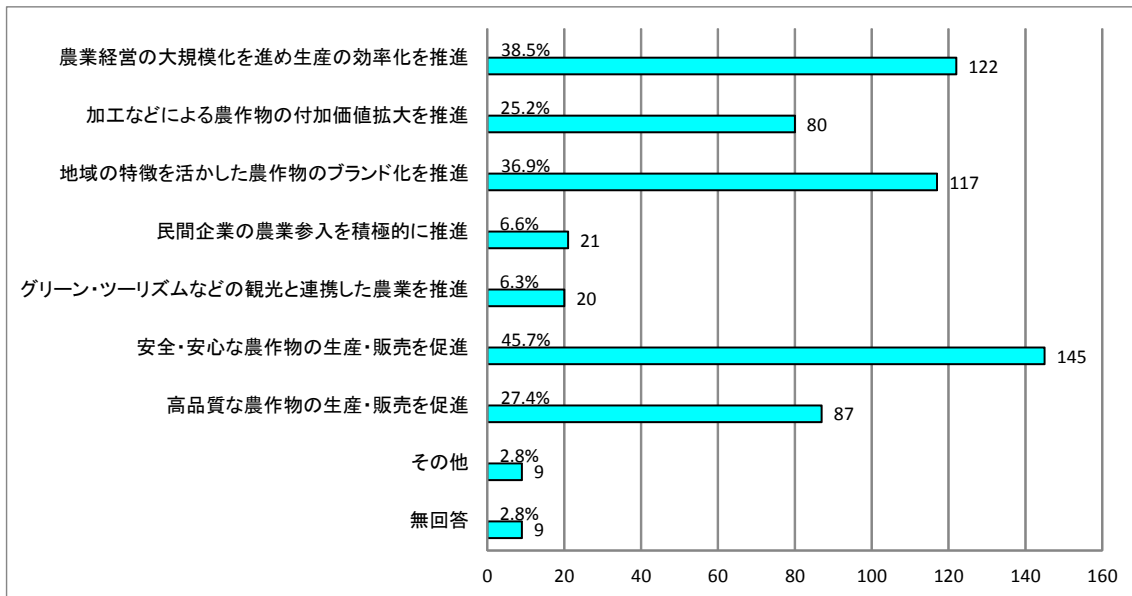
次いで、「農業生産基盤（ほ場整備等）の整備」「集落営農組織の育成や法人化の促進」と続く。



その他
再生産可能な所得の確保。
農業支援策、農業政策（国、県、市の強力なバックアップ）。
年令にこだわらず都市部や他業種から比較的容易に就農できるシステム。
花の生産。
収入（どれだけコストダウンをはかっても、価格は自分で決められない）。
国からの補助金や農協の指導次第でしかやっていけない。
人手と資金、これがないとなにもできない。

問9. 秋田市の農業振興について、今後どのように進めていくのが良いとお考えですか。次の中から2つ以内を選んで番号を記入してください。

「安全・安心な農作物の生産・販売を促進」とした農業者が最も多かった。次いで「大規模化と生産の効率化」が続き、「農作物のブランド化」が3番目に多かった。

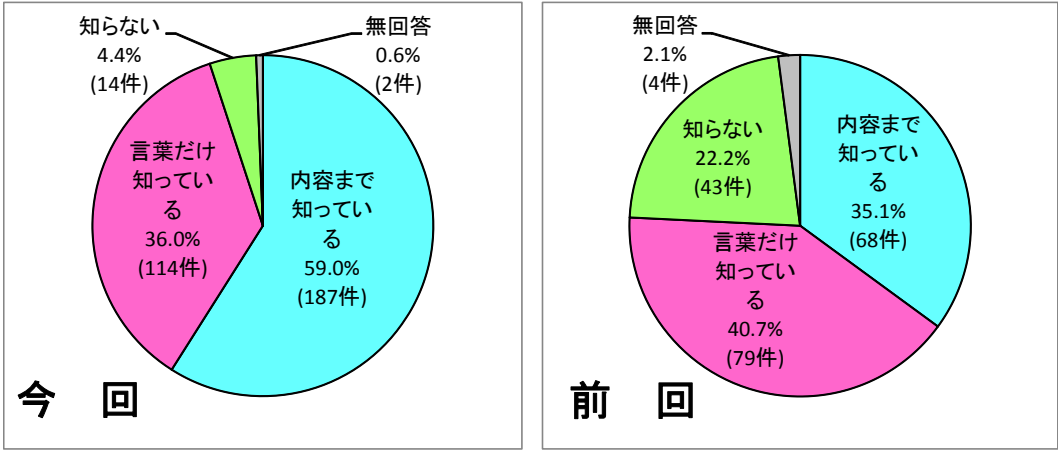


その他
販売できる、もしくは買い取り先がもっと営業力（販売先確保）が必要。
法人等に対しての施設設備導入の助成拡充。
地産地消の徹底、スーパーに秋田市産の野菜ばかりの状態にするための支援。
終農、不作地等をカバーできる維持的生産集団、施設の検討。
メディア等を通じ、消費者への認知度拡大。
もっと他にあるような気がする。

6次産業化について

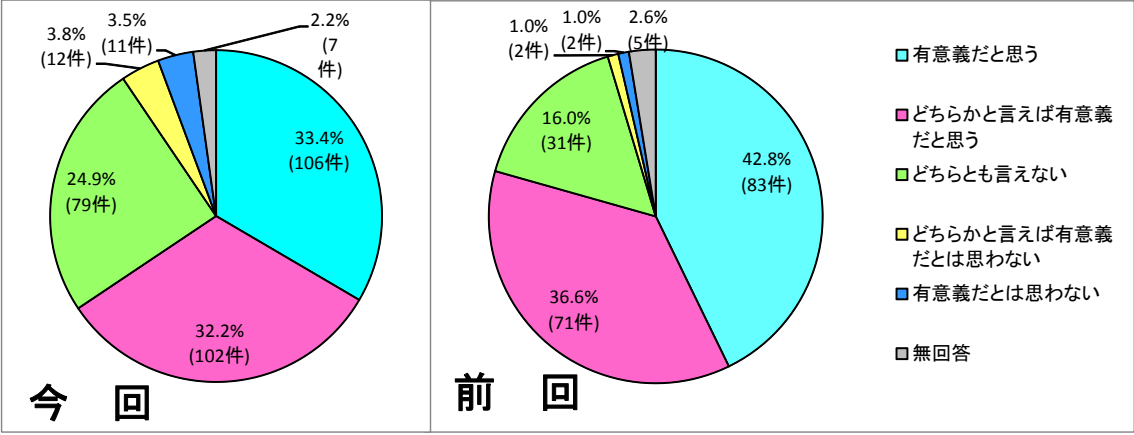
問 10. あなたは6次産業化という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

今回の調査では、95.0%が「内容まで知っている」「言葉だけ知っている」とし、前回の75.8%から19.2ポイント増加した。農業者の中で「6次産業化」が浸透していることが伺える。



問 11. 6次産業化とは、生産（1次産業）と加工（2次産業）、販売（3次産業）を一体化して、地域に新しい付加価値を生み出そうとする取組です。あなたは6次産業化を進めようという取組が、秋田市の産業振興にとって有意義なものだと思いますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

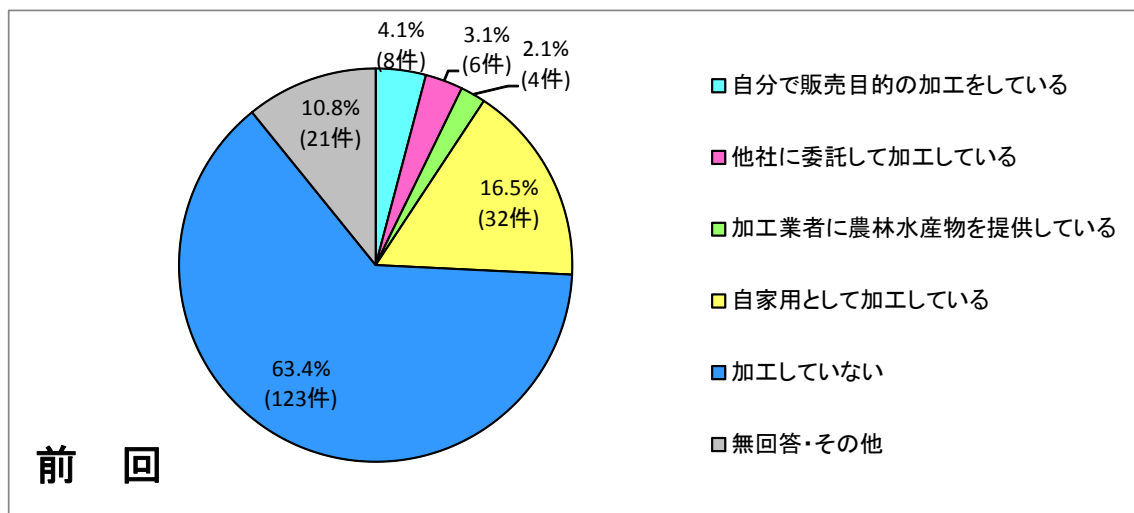
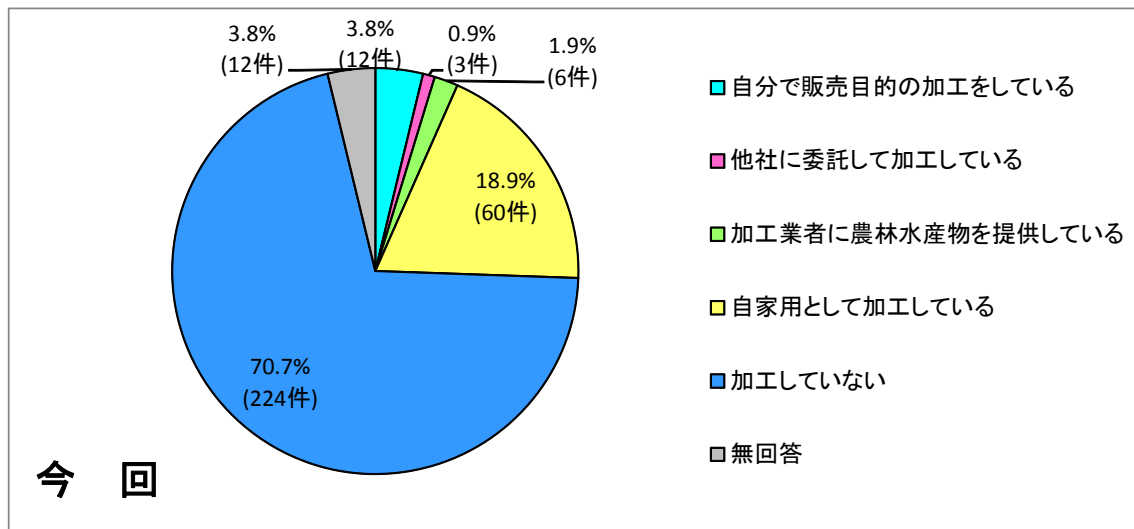
「有意義だと思う」「どちらかと言えば有意義だと思う」が65.6%と、前回の79.4%から13.8ポイント減少した。



農林水産物の加工について

問 12. あなたの世帯で生産している農林水産物を活用して、現在、加工に取り組んでいますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

4.7%が「自分で販売目的の加工をしている」「他社に加工を委託している」とし、前回の7.2%から2.5ポイント減少したが、件数は14件から15件と1件増加している。なお、認定農業者であっても加工に比重をおいているため、商工業者対象の調査に回答している農業者もいる。



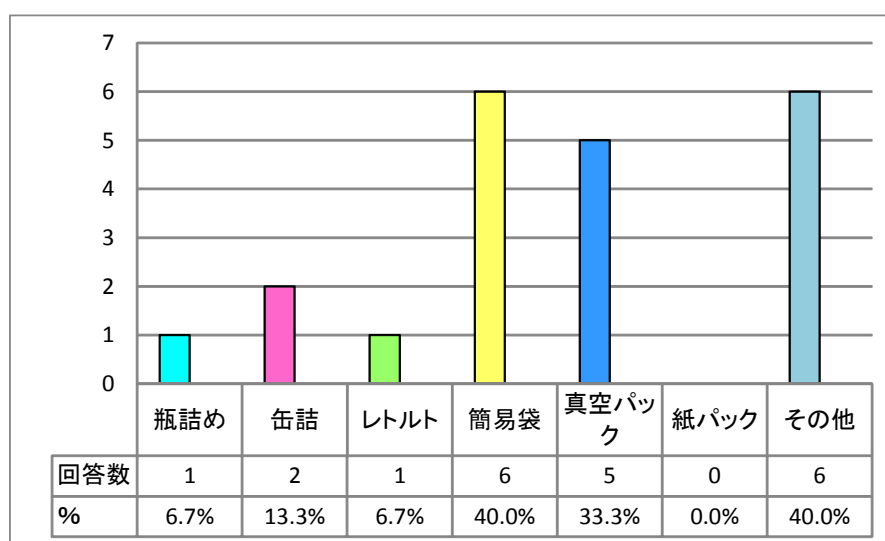
(問13から問17までは、問12で「1. 自分で販売目的の加工をしている」「2. 他社に委託して加工している」と答えた場合に記入)

問 13. あなたの世帯で、販売目的に加工している主な農林水産物は何ですか。
農林水産物名とその加工品を記入してください。(3つまで回答可)

取組事例は少ないながら、漬物、ジュース、食材など、さまざまな農産物を活用した加工が行われている。特に「米」は「味噌、米粉、おかゆ」など、多様に加工されている。(有効回答件数は15件)

農林水産物名	回答数	→	加工品名
野菜(きゅうり、大根、メロン、なすほか)	8	→	漬物(いぶりがっこ含む)
りんご	3	→	ジュース
にんにく	2	→	黒にんにく
米	3	→	味噌、米粉、おかゆ
カボチャ	1	→	ピューレ
そば粉	1	→	そば
大豆	1	→	味噌
たまねぎ、ねぎ	1	→	ラーメン、うどん(食堂)
野菜	1	→	総菜
野菜	1	→	食材(農家民宿)

問 14. その加工品の形態は何ですか。次の中から主なもの3つ以内を選んで番号を記入してください。



その他・・・料理提供、樽、ビニール袋、トレーラップ包装

問 15. その加工品の主な販売エリアはどちらですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

秋田市内での販売が中心となっており、加工品の販路はごく狭い範囲で展開されていることが伺える。(有効回答件数15件)

項目	回答数
秋田市内	13
秋田市以外の秋田県内	1
東北地方	0
関東地方	0
東北・関東地方以外の国内	0
国外	0
無回答	1
計	15

問 16. 加工手段はどうなっていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

約6割が「自前の設備で加工」に取り組んでいる。次に「県外の企業等に外注し加工」しているが多い。

項目	今回	前回
自前の設備で加工	60.0%	57.1%
公共の設備を借りて加工	0.0%	0.0%
他社・他人の設備を借りて加工	0.0%	0.0%
県内の企業等に外注し加工	6.7%	14.3%
県外の企業等に外注し加工	20.0%	21.4%
その他	6.7%	7.1%
無回答	6.7%	0.0%

問 17. あなたの世帯では、今後、加工にどのように取り組みたいとお考えですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「新たな加工に取り組みたい」「加工量を拡大していきたい」農業者の割合は前回とあまり差はなかったが、「現状を維持したい」農業者が前回の0%から40.0%に増加している。一方、「加工量を縮小したい」「加工をやめたい」と答えた農業者はいなかった。

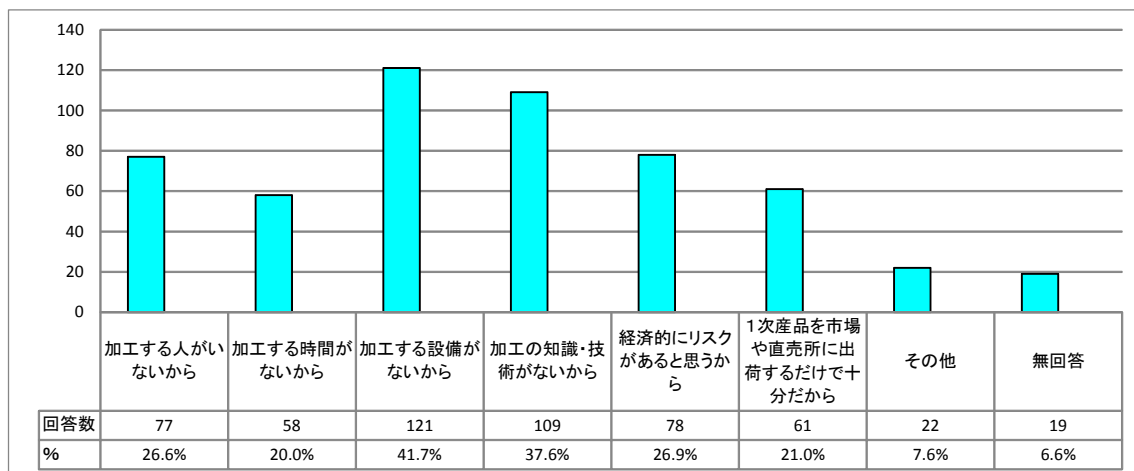
項目	今回	前回
新たな加工に取り組みたい	20.0%	21.4%
加工量を拡大していきたい	33.3%	35.7%
現状を維持したい	40.0%	0.0%
加工量を縮小したい	0.0%	28.6%
加工をやめたい	0.0%	14.3%
無回答	6.7%	0.0%

加工に取り組んでいない理由等について

(問18と問19は、問12で「3. 加工業者に農林水産物を提供している」「4. 自家用として加工している」「5. 加工していない」と答えた場合に記入)

問18. あなたの世帯が加工に取り組んでいない理由は何ですか。次の中から2つ以内を選んで番号を記入してください。

「加工する設備がないから」が41.7%と最も高く、次いで「加工の知識・技術がないから」(37.6%)が続くことから、加工設備に対する支援や、研修等の実施が求められている。



その他

現在販売商品の試験中。販売先、販売方法を検討中（勉強中）。

加工業者と連携、契約生産している。

自家用で十分。

すべて該当。

兼業だから。

稲作の場合、加工の範囲がどこまでかわからない。

素人が手を出しても成功しないと思うから。

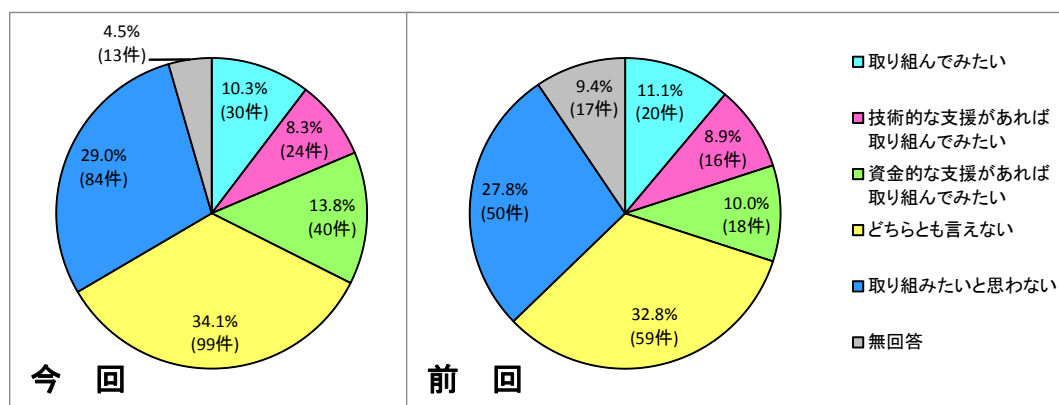
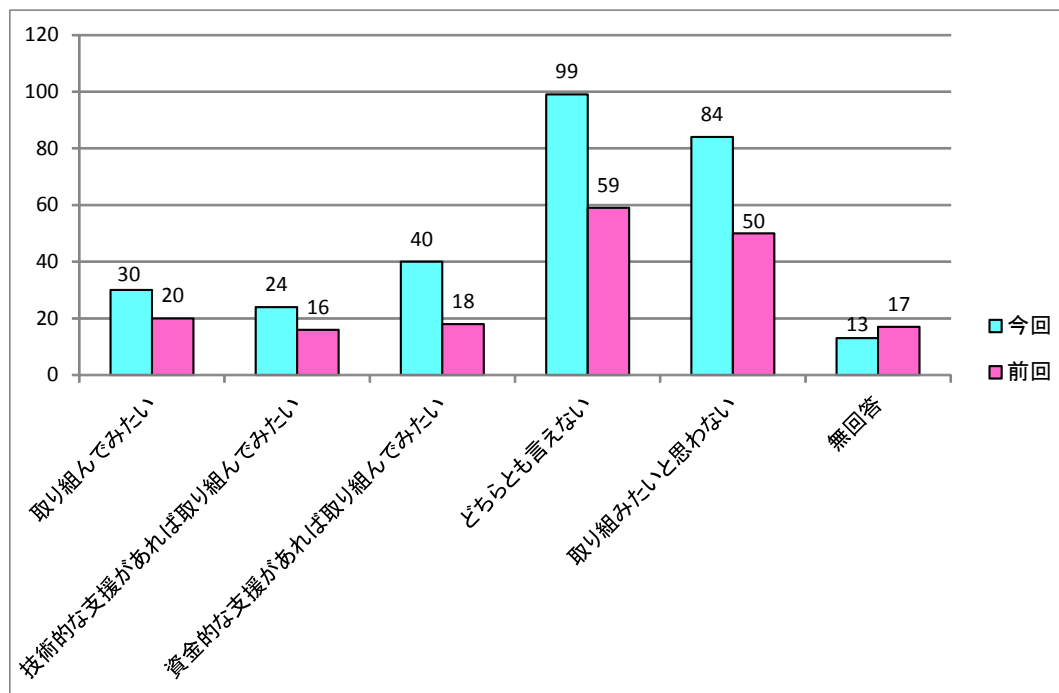
年齢的に無理だと思うから。

対コストに合う加工品がない。

人手、資金の不足。

問19. あなたの世帯では今後、自分で生産した農林水産物の加工に取り組んでみたいと思いますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

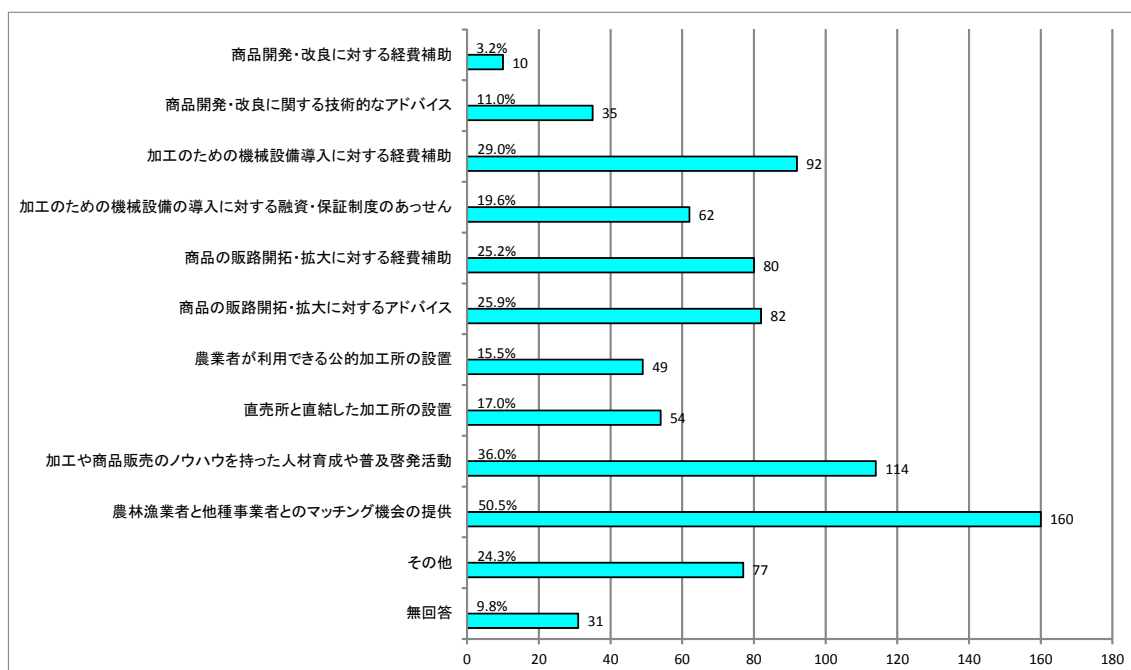
「取り組んでみたい」「技術的・資金的な支援があれば取り組んでみたい」といった積極的な意見は、割合で見ると今回は32.4%と前回（30.0%）と微増であり、実数で見ると94件と、前回の54件から40件増加している。



加工への参入について

問20. あなたは（記入された方のお考えで結構です）、農業者が自ら生産した1次製品の加工や商品開発・改良に取り組むためには、どのような行政支援が有効だと思いますか。次の中から3つ以内を選んで番号を記入してください。

「農林漁業者と他業種事業者とのマッチング機会の提供」が50.5%と最も多い。次いで「加工や商品販売のノウハウを持った人材育成や普及啓発活動」（36.0%）、「加工のための機械設備導入に対する経費補助」（29.0%）の順となっている。



その他

自分で生産して自分で売る営業活動の支援。

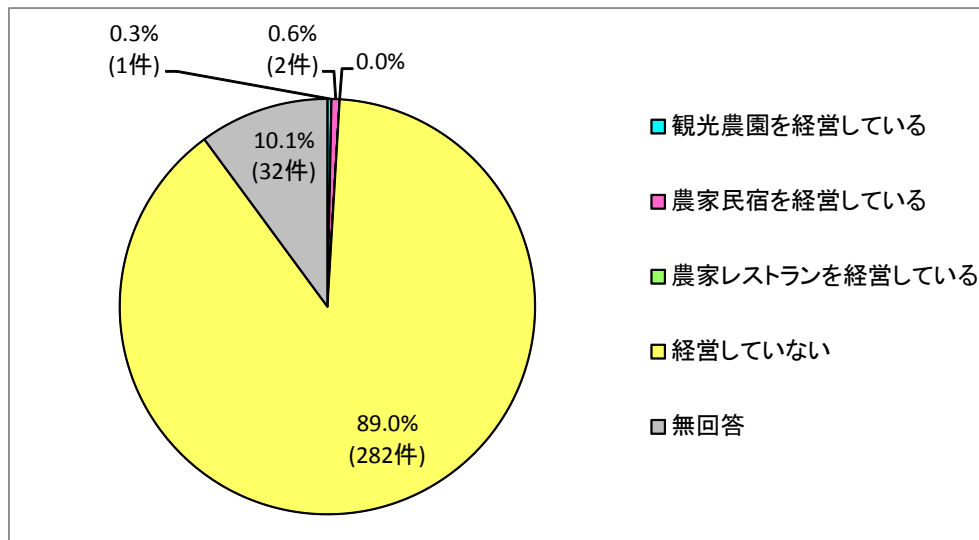
労力支援。

企業と一緒に取り組む事。

観光農園等について

問21. 販売（3次産業）の中には、観光農園や農家民宿、農家レストランなどのサービス販売も含まれています。あなたの世帯では現在これらを経営していますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「経営していない」が89.0%と最も多く、「観光農園を経営している」が1件、「農家民宿を経営している」が2件にとどまっている。



(問22は、問21で「1～3.を経営している」と答えた場合に記入)

問22. 主要な経営（摘み取り体験、宿泊、料理提供など）のほかに、どのようなことを実施していますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

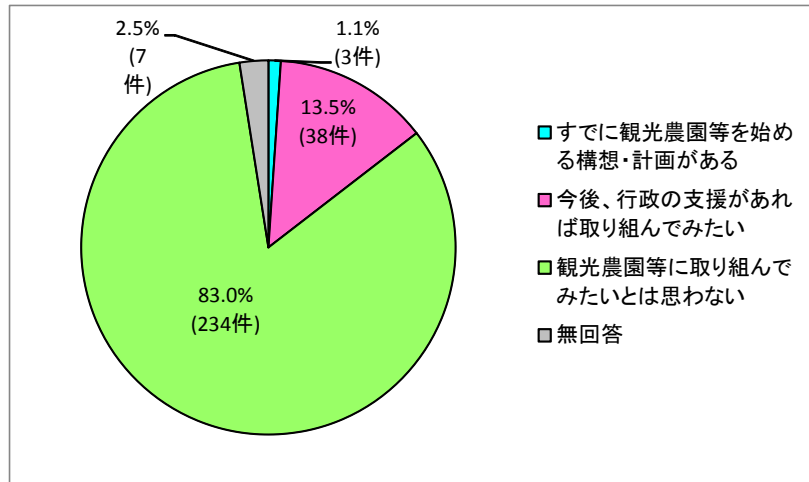
項目	回答数
農業体験（植付けや収穫）の実施	1
オーナー制、市民農園、加工体験施設等を併設している	1
加工品の製造・販売	0
その他の形態	0
特になし	0
無回答	1

観光農園等に取り組んでいない理由について

(問23は、問21で「4. 経営していない」と答えた場合に記入)

問23. 観光農園等に取り組んでみたいと思いますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

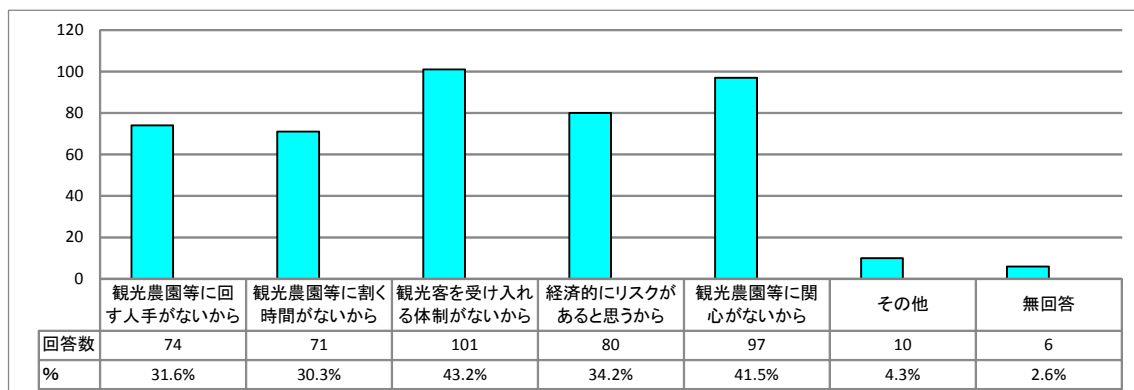
「観光農園等に取り組んでみたいとは思わない」が83.0%と最も多かったが、「今後、行政の支援があれば取り組んでみたい」という積極的意見が13.5%あった。



(問24は、問23で「3.観光農園等に取り組んでみたいとは思わない」と答えた場合に記入)

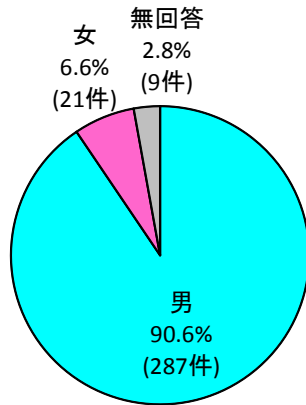
問24. あなたの世帯が観光農園等に取り組んでみたいとは思わない理由は何ですか。次の中から2つ以内を選んで番号を記入してください。

「観光客を受け入れる体制がないから」「観光農園等に関心がないから」がそれぞれ4割以上であった。その他として、「年齢的に無理がある」「水稻だけで十分」などといった意見があった。

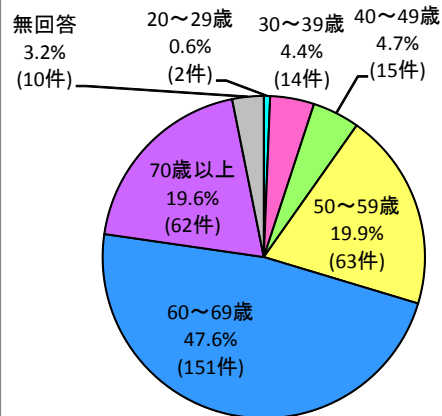


あなたご自身について

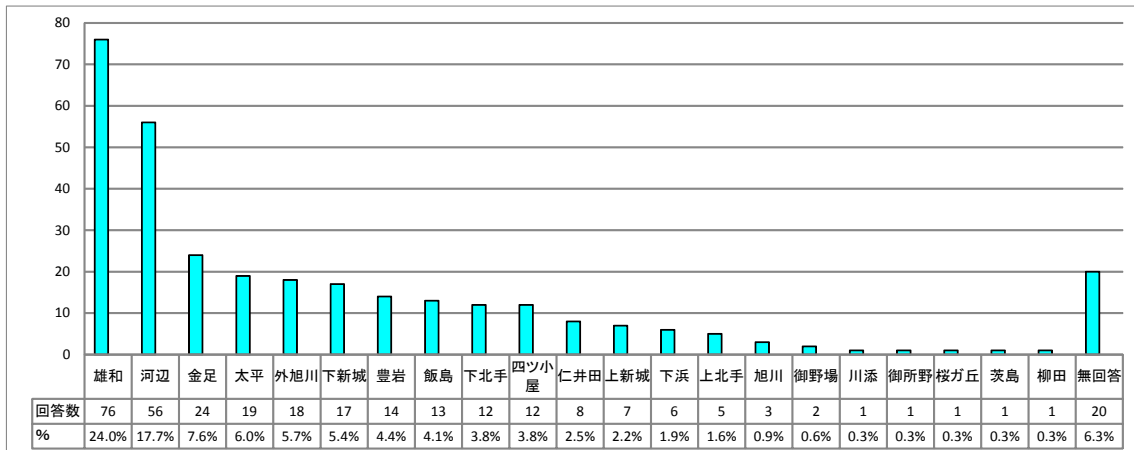
性別



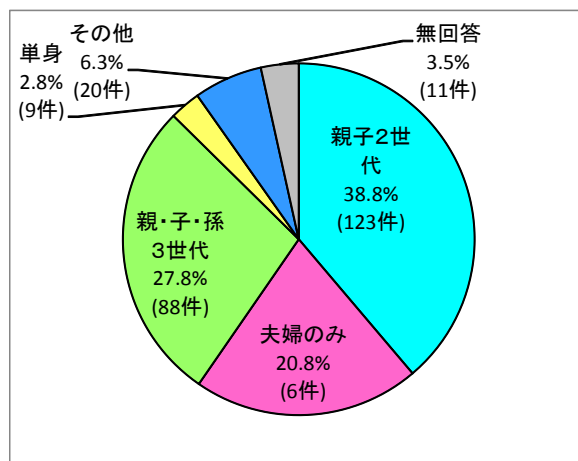
年齢（平成27年6月30日現在）



居住区



家族構成



自由意見欄（調査関連事項でご意見がございましたら、自由にご記入ください。併せて、有望な市内農産加工品の情報がありましたらご記入ください。）

（現状について）

○法人設立間近で、まずは経営ノウハウの確立、労働力の確保、活動拠点の整備が急務で、構想（6次産業化）どころではない。（60代・男）

○どんなに良いプランがあっても年齢的に意欲と体力もなく収益をあげるよりもリスクをつくらぬ農業をする。（70代・男性）

○法人設立間近で、まずは経営ノウハウの確立、労働力の確保、活動拠点の整備が急務で、構想（6次産業化）どころではない。（60代・男性）

○夫婦とも高齢で、今後は規模も縮小し、体力が続く限り稲づくりに励んでいきたい。（60代・男性）

○80歳を過ぎた2人で農業をやっている。判断できないところもある。（80代・女性）

○現在の状況では、農業を継いでくれとは言えない。コロコロ変わる農政では安心して農家をできない。（60代・男性）

○資金がないと何もできない。食材が悪ければ安全なものはない。生産段階での点検が必要で、ヨーロッパのブランド品はこういうことを何年も続けている。（50代・男性）

○冬期に市場へ提供できる野菜、加工品等で経営安定できる状態になるには、どんな事が必要か現実問題として考えさせられる。研修を受けても経営まで安定できる作物などに確信が持てないでいる。米価の低迷に生活が苦しくなっている。（60代・男性）

○6次産業化はできない。山間部で作物等よりカモシカをいかに排除するかが問題だ。雪も多くネット貸しは春から秋までで、段差もあり、何をやるにも条件が悪すぎる。（60代・男性）

○田畑を出資し農業の法人化が必要だと思う。地域では120haを30戸の農家で経営しているが、機械の購入などによるコスト高、米の価格下落によりJAの仮渡し金を受け取ると販売時にはほとんど入金がないのが実情である。

(60代・男性)

○担い手が少なく、耕作放棄地が増えてくるのが目に見えている。若い人に農業を勧めても楽しく未来を生活できるか不安。現在の農業では一番の課題だと思う。6次産業化には大賛成。地区に直売所があればと思う。(60代・男性)

○稲作は価格の心配、園芸作物は売り先があるか、設備投資と営農バランス(収支)がとれるかの問題で、先行きに強い不安がある。それでも何とか継ぎたい気持ちはある。6次産業化は女性の力、意気にかかる所が大きいと思う。機械、設備を安くリースするような形で、負担を下げれば大きいと思う。(60代・男性)

(6次産業化について)

○6次産業化を自分でやってみて決して楽なことではないが、農業が向かう一つの方向と思う。そのためには都市部を含めた消費者が安心して購入できる、安全な農作物を生産することが大事だと思う。東京では秋田の枝豆はブランド力がないためか、他県と比べ安かったと記憶している。従来 of 農業経営だけでなく、新しいコンセプトで農業という「仕事」を考える必要があるのではないか。(60代・男性)

○近所の菓子店にカボチャを提供し、まんじゅう・プリンを製造・販売してもらっている。このように協力してもらうことも大切ではないか。6次産業化取り組みと言われても、資金も技術もないことから、お店との協力も大切と考えている。(70代・女性)

○リンゴの加工を考えている。園芸振興センターの研修室を見学したい。(70代・男性)

○規格外大豆を加工し、付加価値を付けたい。(60代・男性)

○6次産業化の難しさは原材料(農産物)の年間安定供給体制ができないことに尽きると思う。季節ごとの食材を使つての商品開発はコストと販売で無理と思われる。(60代・男性)

○6次産業化は一次製品の付加価値と捉えがちであるが、一次産品を安定的に高く値を付けて売る事がありきで、まずは一次産品を自信を持ってつくることではないか。(60代・男性)

○6次産業化はとても難しい事だと思う。一人や二人ではとてもできる物ではない。(50代・男性)

○ブルーベリー、ラズベリー、ストロベリー、3ベリーの加工品を紹介して欲しい。(50代・男性)

○県内の農業者に潤沢な資金があるとは思えない。気持ちがあっても(6次産業化は)できないのが現状ではないか。(50代・男性)

○山間地であり、山の資源を活かしたい。原木椎茸が極端に少ないことで、直売所に定着した客層がある。地域の景観とタイアップし、原木椎茸の「椎茸狩り」など収穫体験や植菌体験などを考えている。(60代・男性)

○昔からある直径20cmほどの餅菓子にハチミツや生クリームなどをはさみ商品化したい。半月という似た菓子があるが少し堅くもう少し柔らかい方が良いという意見を何度か聞いており、高齢者の時代にあわせた菓子づくりもどうか。(60代・女性)

(行政への意見・要望について)

○6次産業化に大変興味がある。色々取り組みたいと考えており、様々な情報を届けて欲しい。(40代・男性)

○行政支援を受けて6次産業化を推進したいが、要項が厳しく参画できない。いかにもお役所仕事という感がある。将来の秋田市の農業は、市の農政支援が不可欠であり、農林部長以下、職員に大いに期待している。多面的機能を持つ農業の必要性と食糧生産の重要性にプライドを持ち、将来に夢を持っている。若者の夢を応援して欲しい。(60代・男性)

○一人が何かを始め、皆が手がける頃にはブームは終わっている。新しい物にトライするチャレンジ精神が必要である。そうしたことを牽引する若い力が不足していると感じる。魅力がなければ若い人は集まらないと思う。行政が勉強し梶をとり、オール秋田でトライできるブランドを築いて欲しい。早く「あきたこまち」に変わる品種を開発し、全国に発信して欲しい。次期ブランド（仮称）「あきたスーパーこまち」に期待する。（70代・男性）

○少し厳しいが、①市主導のモデルケースを作っていないか。②戦略がないのでは（野菜・ダリア以外）。③栽培しても売り込みは市、JA、県でできない。④基盤整備、後継者、荒れ地の市策がない。⑤率先しての市策を。⑥市の補助金で活性化や有望な作目はあるか。⑦有望な加工品の主動は農家がないから今後もつくりませんか。（50代・女性）

○地域内で耕作放棄地が急拡大しておりまだ増える。農地・水保全管理支払交付金で刈り払いを行っているが手が回らない。一方でリタイヤ世代の園芸ブームにより家庭菜園の需要が増加している。行政の仲介と軽微な整備負担、権利関係の明確化があれば、耕作放棄地と家庭菜園の供給不足が同時に解消できる。（60代・男性）

○稲以外の取り組みで、市のゴミ処理場の熱でハウス栽培はできないのか。冬場、暖房費がかからないのか。（60代・男性）

（その他）

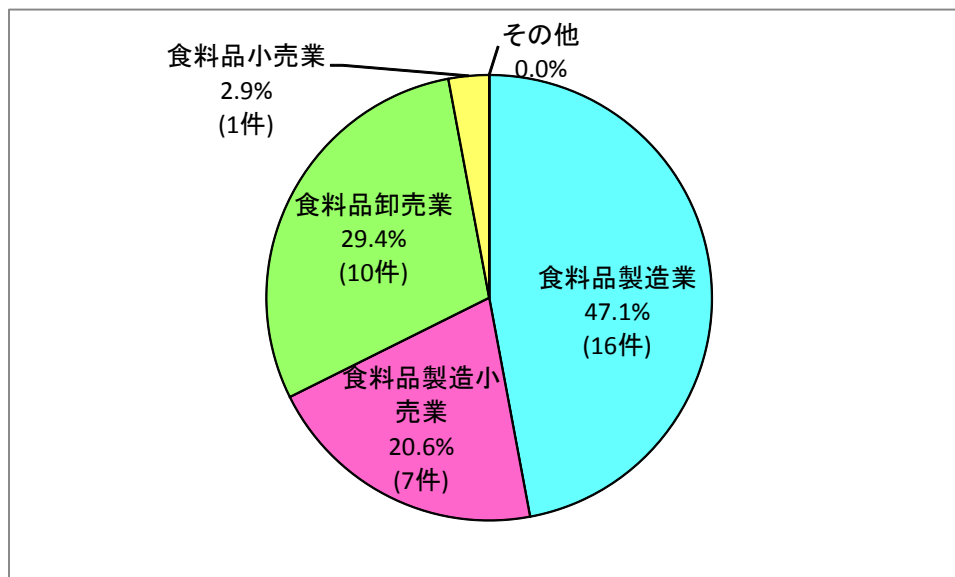
○農政が次々と変化するため、どう対応すれば良いか大変困っている。大規模化というが一定次時期に農政が変わるので迷っている。農地等を守るのは小さい農家の方が良いと考える。（70代・男性）

○地域の農業はこれからどうなるのか。枝豆を1ヘクタール生産したが、販売価格の半分がJAの手数料となる。だから農家は赤字経営になると思う。（改善策は？）（70代・男性）

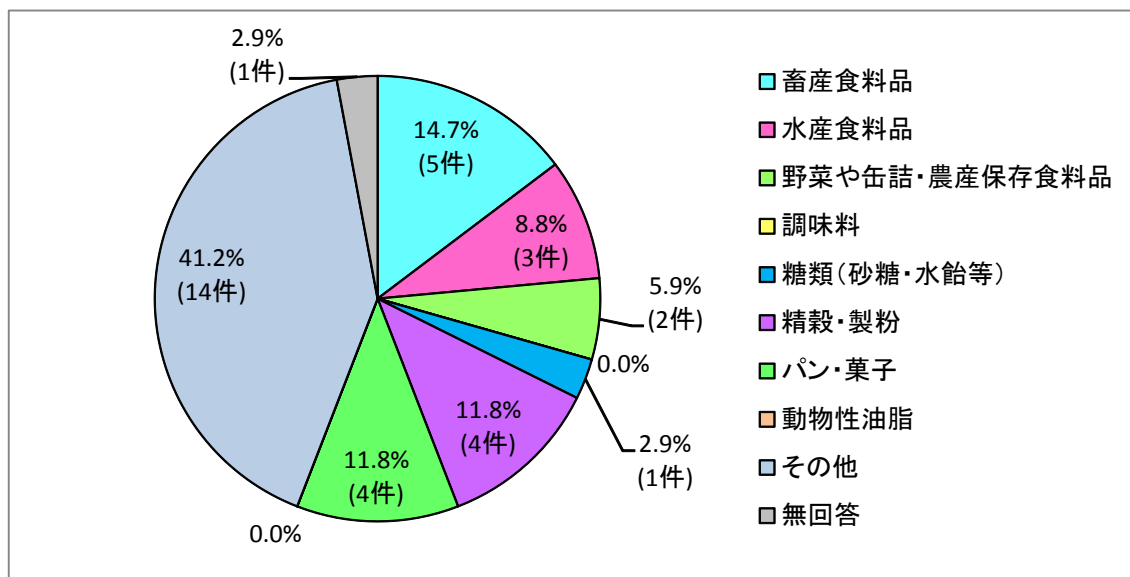
2 商工業者（食品製造業者等）

事業内容について

問1. 貴社の主な事業は何ですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

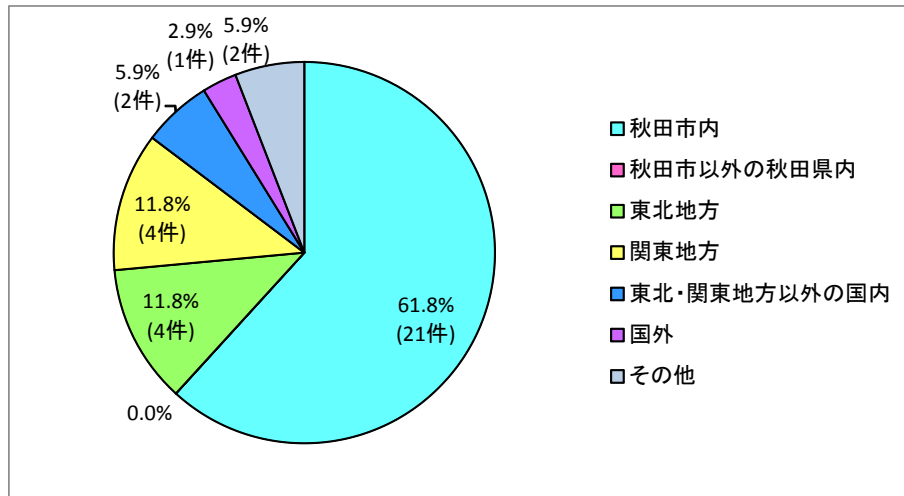


問2. 貴社が主に製造・販売している製品は何ですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。



その他・・・酒類4件、豆腐2件、製麺2件、コーヒー、業務用食料品、総菜・弁当・オードブル、健康食品、冷凍食材、即席麺

問3. 貴社製品の主な出荷先はどちらですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。



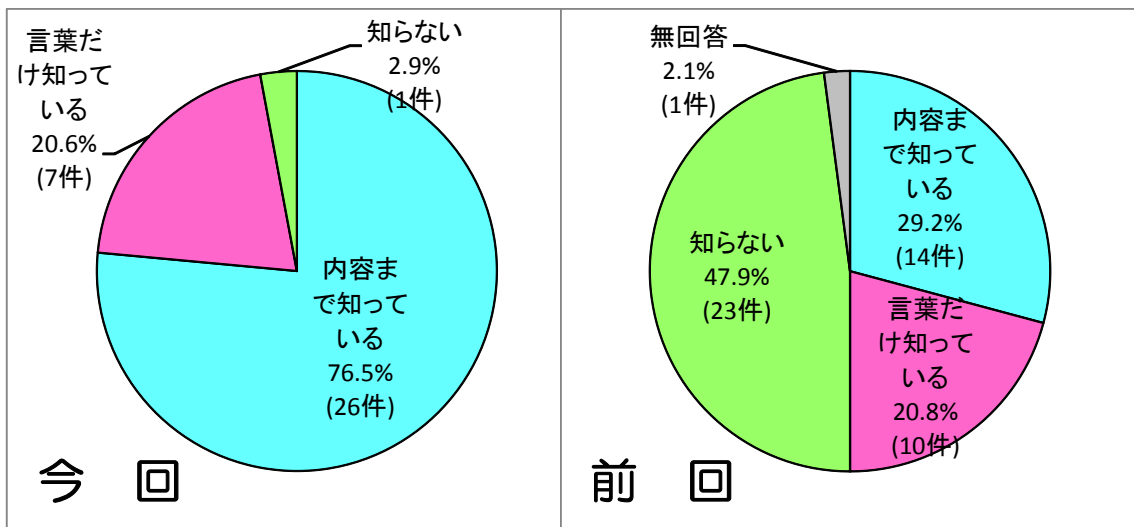
国外・・・マレーシア

その他・・・全国、国内および海外

6次産業化について

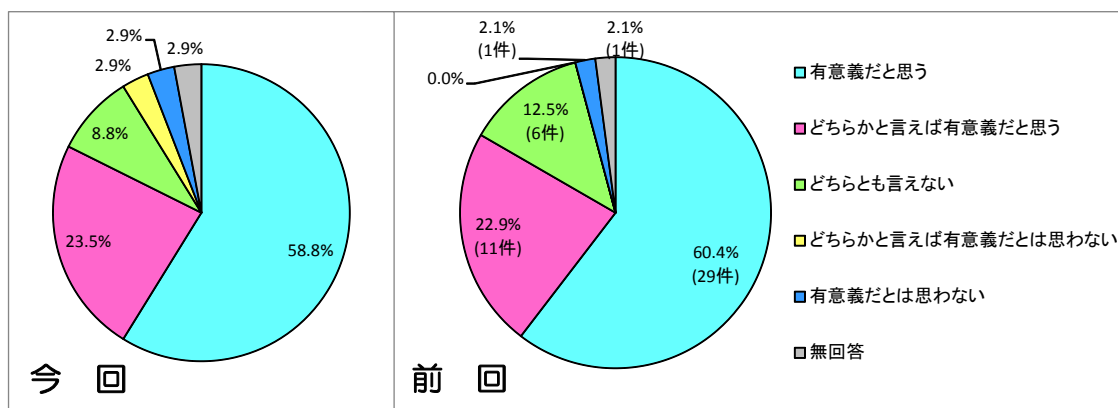
問 4. あなたは、6次産業化という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

今回の調査では、97.1%が「内容まで知っている」「言葉だけ知っている」とし、前回の50%から47.1%増加した。農業者と同様に、商工業者の中でも「6次産業化」が浸透していることが伺える。



問 5. 6次産業化とは、生産（1次産業）と加工（2次産業）、販売（3次産業）を一体化して、地域に新しい付加価値を生み出そうとする取組です。あなたは（記入された方の考え）、6次産業化を進めようという取組は、秋田市の産業振興にとって有意義なものだと思いますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

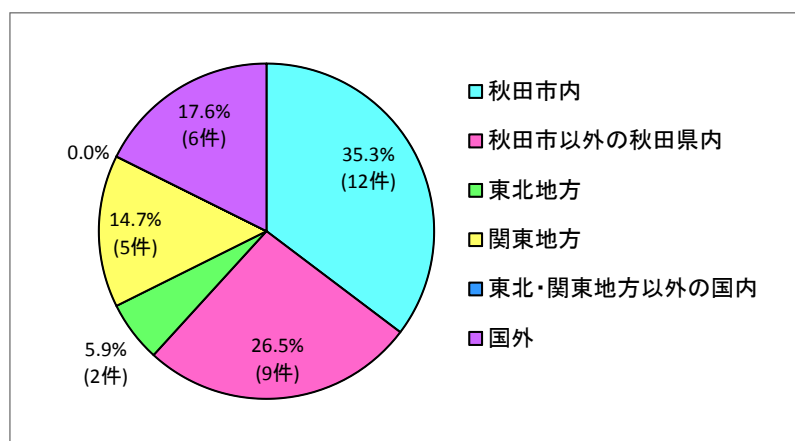
前回「有意義だと思う」「どちらかと言えば有意義だと思う」と答えた商工業者が83.3%だったのに対し、今回は82.3%と1%減であったが、依然として商工業者は6次産業化の取組を新たなビジネスチャンスと捉えており、期待度の高さが伺える。



地元農林水産品の活用について

問 6. 貴社の原材料又は商品の主な仕入れ先はどちらですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

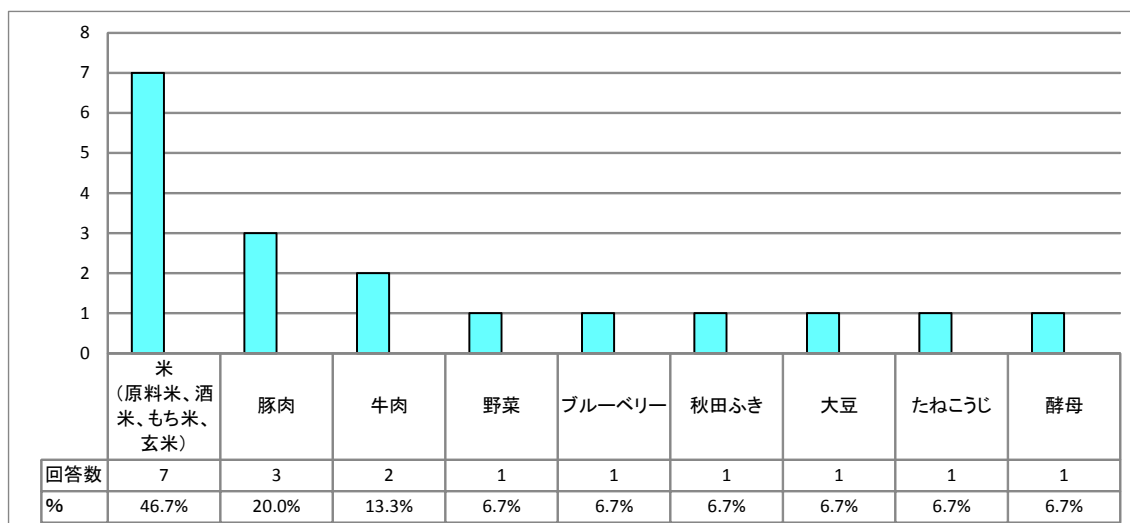
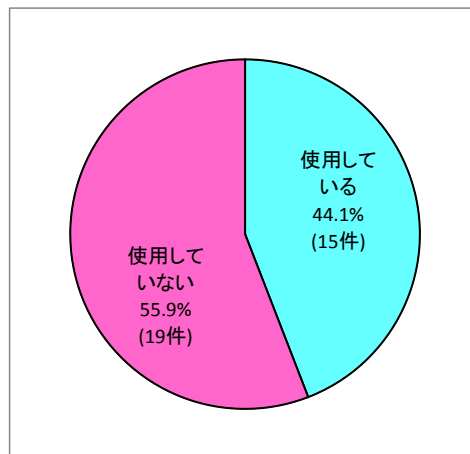
「秋田市内」からの仕入が最も多く、全体の約3割を占めており、「秋田市以外の秋田県内」と合わせて約6割が県内からの仕入となっている。「国外」はブラジル、東南アジア、アフリカ、アメリカ、ブラジルであった。



問 7. 貴社では、原材料や商品のうち、一部でも秋田市内で生産された農林水産品を使用していますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。また、使用している場合はその農林水産品を3つまでご記入ください。

食品製造業および食品製造小売業を中心に、秋田市内産の農林水産品を使用している商工業者は44.1%であった。

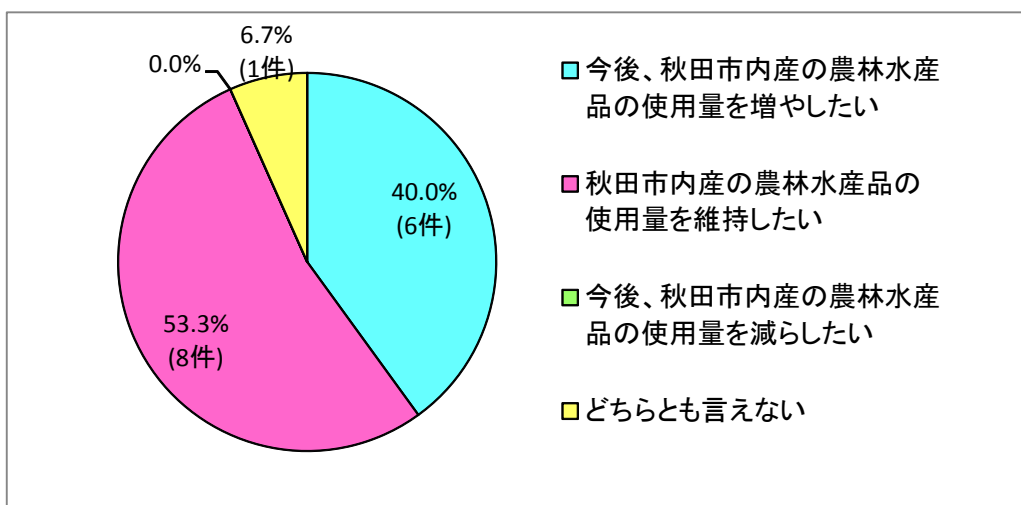
使用している農林水産品は米が最も多く(46.7%)、豚肉や牛肉といった肉類(33.3%)も多かった。また、たねこうじや酵母など発酵に関する産品を扱う商工業者もいた。



(問7で「1. 使用している」と答えた場合に記入)

問 8. 貴社では、秋田市内で生産された農林水産品の使用について、今後、どのようにしたいと考えていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。また、そのように考えている理由をご記入ください。

秋田市内産の農林水産品を使用している商工業者のうち、「秋田市内産の農林水産品の使用量を維持したい」という商工業者が最も多く、53.3%を占めている。次いで、使用量を増やしたい商工業者も多く、市内産品を使用している商工業者の地元産品の活用意欲は高いといえる。(有効回答数15件)



【増やしたい理由】

- ・菓子製造のためピュールにした枝豆が必要だから。

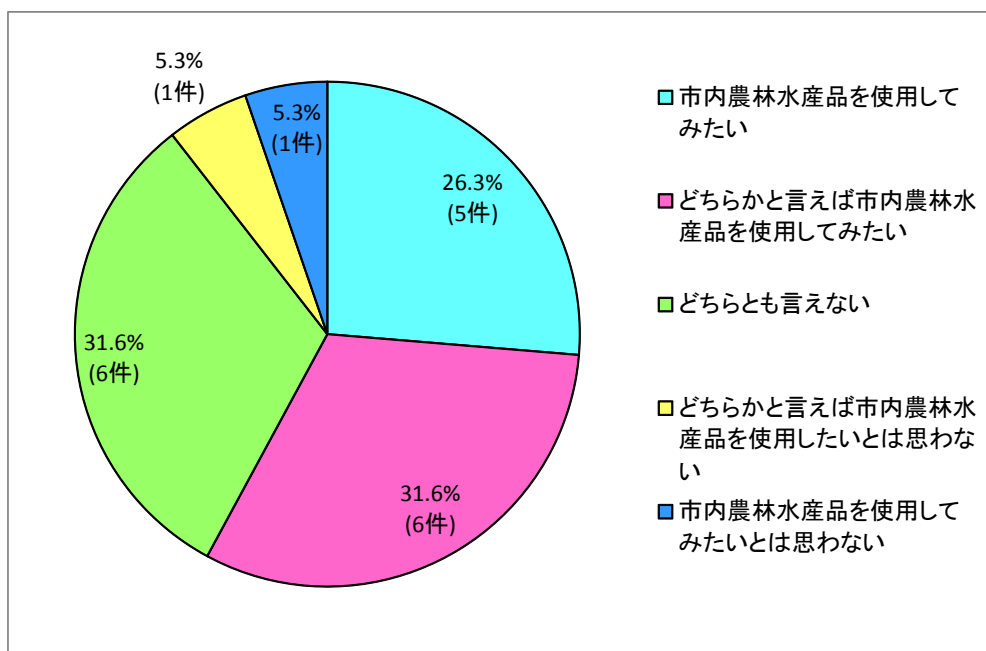
【維持したい理由】

- ・秋田ふきを使用している。多くの用途があるから。
- ・アメリカ大豆より高価で量が増やせないから。

(問7で「2. 使用していない」と答えた場合に記入)

問 9. 貴社では、秋田市内で生産された農林水産品の使用について、今後、どのようにしたいと考えていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。また、そのように考える理由と該当する農林水産品名(複数可)についてもお答えください。

秋田市内産の農林水産品を使用していない商工業者のうち、「市内農林水産品を使用してみたい」「どちらかと言えば市内産農林水産品を使用してみたい」という商工業者は57.9%にのぼり、地元産品の需要は高い。一方、秋田市内産農林水産品では安定供給やコストに不安を持っている商工業者が多い。

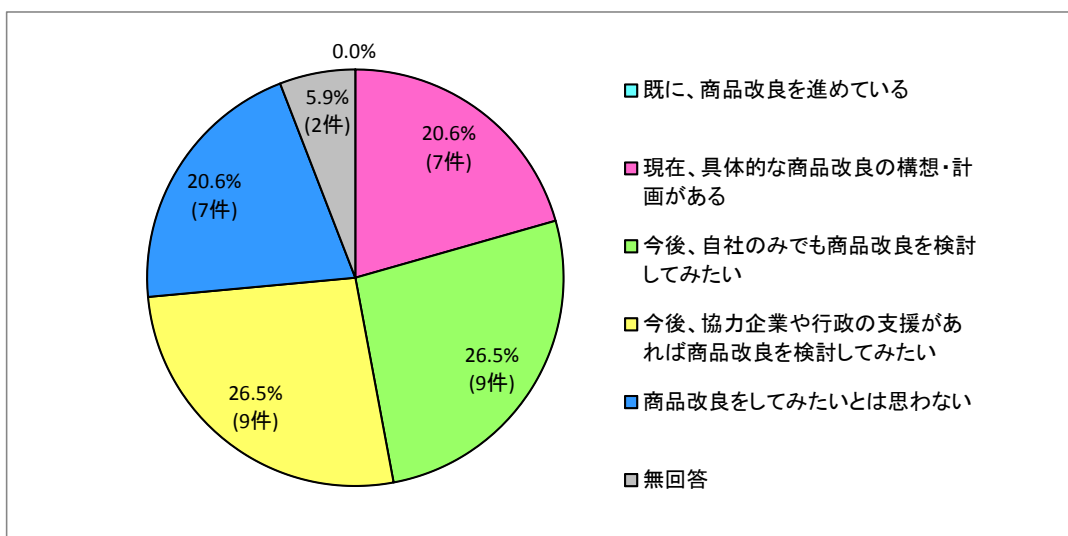


回答	理由	該当する農林水産品名
市内産農林水産品を使用してみたい	他県にない地元食材は可能性がありそうなので使用してみたい。 国内外にご当地商品を開発して行ければ考える。 検討中 未記入	秋田ふき。他県に認知されている食材があれば何でも。 しょつつる、きりたんぼ、ふぐ、山菜 大豆、枝豆、米粉、小豆
どちらかといえば市内産農林水産品を使用してみたい	全国で営業展開しているが、全社ブランドでは無く地域の特産品も扱い特色を出したい。 地域産業活性化のため。 特色をアピールできる。 必要なのは「秋田市」ではなく「秋田県産」。 差別化のため。	米 畜肉 小麦粉、そば粉、他
どちらともいえない	安定供給、品質維持を維持できる業者がない。 安全・衛生面を証明できれば可。 情報があれば検討したい。 本社(東京)一括仕入れをしている。 コスト、数量が揃わなそう。 主に乾物品のため。	つけもの 海産物 冷凍食材全般
どちらかといえば市内農林水産品を使用したいとは思わない	食材の継続提供が不可	
市内農林水産品を使用したいとは思わない	使用する原料が量産されていないため	

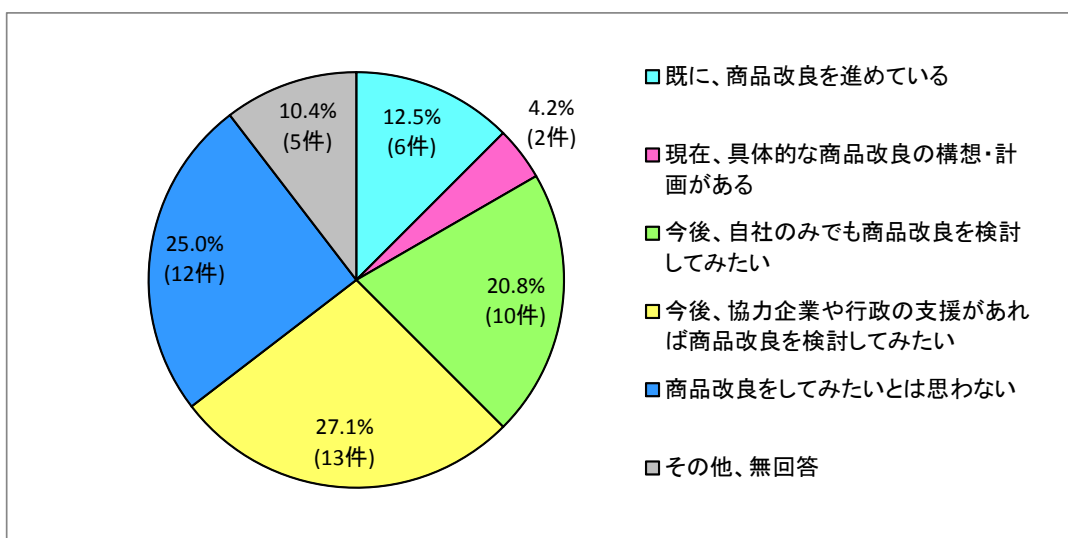
問11. 貴社では、秋田市内や秋田県内の農林水産品を活用して、既存商品の改良をしてみたいと思いますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「既に、商品改良を進めている」商工業者は減少したものの、「現在、具体的な商品改良の構想・計画がある」「今後、商品改良を検討してみたい」とした商工業者は73.6%と、前回の52.1%より21.5ポイント増加した。

今回

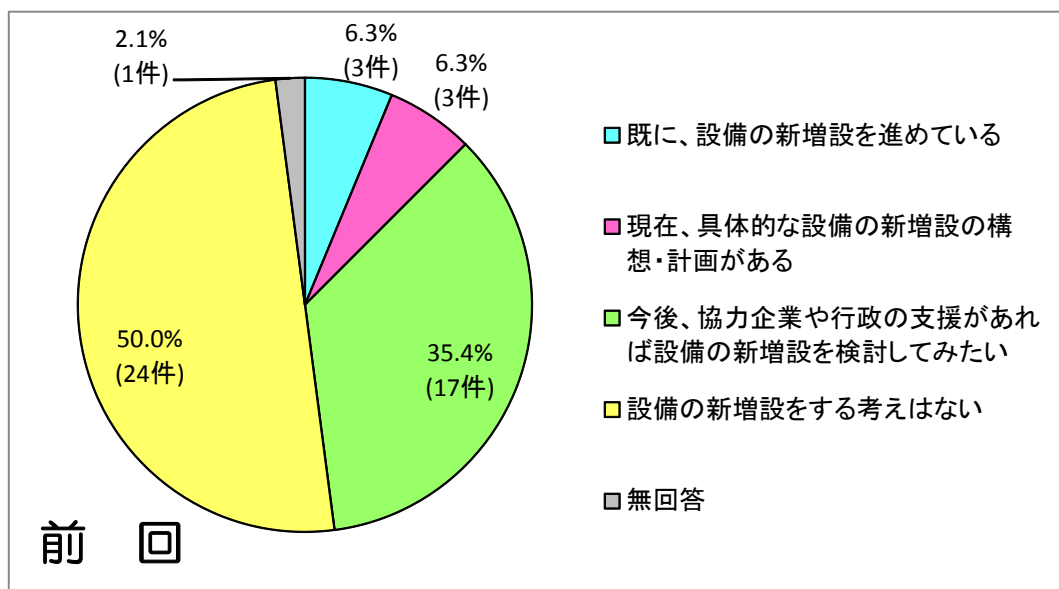
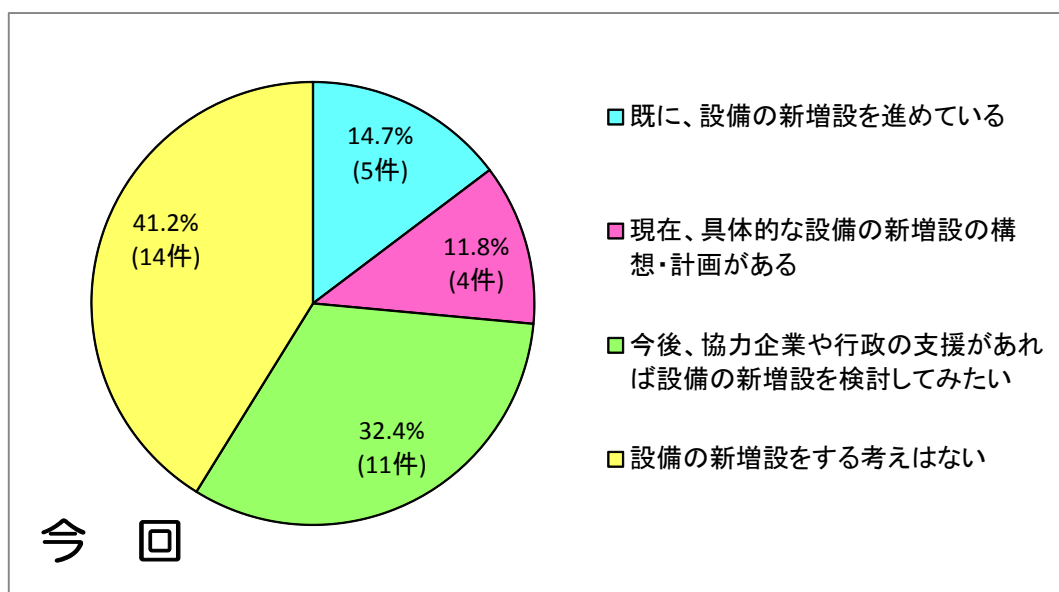


前回



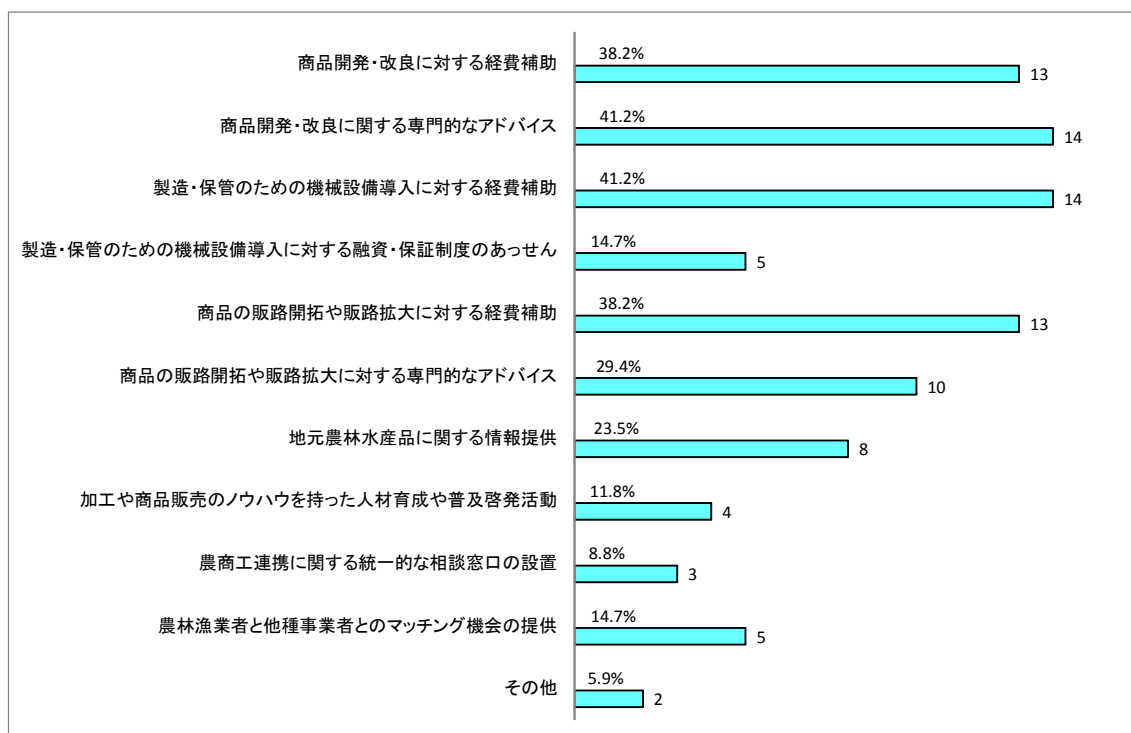
問12. 貴社では、製造設備や保管設備などの新增設の構想・計画はありますか。
次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「既に、設備の新增設を進めている」商工業者は14.7%と、前回の6.3%から5割以上増加した。同様に、「現在、具体的な設備の新增設の構想・計画がある」商工業者も11.8%と、前回の6.3%から増加した。



問13. あなたは（記入された方のお考えで結構です）、秋田市内や秋田県内の農林水産品を活用した商品開発・改良や商品製造を進めていくためには、どのような行政支援が有効だと思いますか。次の中から3つ以内を選んで番号を記入してください。

「商品開発・改良に関する専門的なアドバイス」および「製造・保管のための機械設備導入に対する経費補助」が最も多かった。次いで「商品開発・改良に対する経費補助」および「商品の販路開拓や販路拡大に対する経費補助」の順となっている。



自由意見欄（調査関連事項でご意見がございましたら、自由にご記入ください。併せて、有望な市内農産加工品の情報がありましたらご記入ください。）

（現状について）

○今後、秋田市内産の農林水産品の使用量を増やしたいと考えているが、2次加工をする会社が少なく、規模が小さく難しい。（食料品製造業）

○秋田県産使用－あきたこまち、めんこいな等の使用。その他食材は県外産使用が多い。今後は県内産使用を望むが、供給が問題です。（食料品製造小売業）

○当社では、即席麺（マルちゃんブランド）の製造を主としておりますが、直近では、青森県との行政、商工会とのタイアップにて「激にぼしラーメン」「味噌カレーミルクラーメン」を開発・販売し、成功している事例があります。チルド食品でも、ご当地ラーメンシリーズとして「日本のうまい！ラーメン」ブランドも育成中です。（食料品製造業）

（行政への意見・要望について）

○市役所の職員については、熱心な人とそうでない人との差があります。地域特産品コンクール受賞後、さっぱり売れない商品もあるので審査員選定に問題があると思います。（食料品製造業）

○商品開発、改良した商品の有効な販路、宜しくお願い致します。（食料品小売業）

（その他）

○地産他消。秋田の物を使って付加価値のある商品を創り外貨を獲得したい。（食料品製造小売業）

○全国に販路があり学ぶ事が多いです。農産加工品とマーケット（需要）の不一致を感じます。品質×内容量×価格を十分に精査して、加工品に取り組む必要があります。（食料品製造業）

○食=ハコではありません。（食料品卸売業）